

平成28年度 第3回 高山市総合教育会議 議事録

【日 時】 平成28年9月23日（金） 14時30分～16時30分

【場 所】 高山市役所 2階 201・202会議室

【出席者】 (構成員) 高山市長 國島 芳明
教育長 中村 健史
教育長職務代理者 針山 順一郎
教育委員 打江 記代
教育委員 岡田 悦子
教育委員 野崎 加世子
教育委員 長瀬 信

(構成員以外の出席者)

企画管理部長、教育委員会事務局長、市民活動部長、福祉部長、市民保健部長、
商工観光部長、企画課長、教育総務課長、学校教育課長、文化財課長、
学校給食センター所長、市民活動推進課長、生涯学習課長、企画係長、
教育総務係長、スポーツ推進係長、企画課職員

【会議内容 (次第)】

- ・市長あいさつ
- ・教育長あいさつ
- ・議題
 - (1) 前回会議における意見の整理について
 - ・資料① 平成28年度第2回総合教育会議における意見の論点整理
 - ・資料② 平成28年度第2回総合教育会議議事録
 - (2) 教育環境の整備について
 - ・資料③ 高山市における教育環境整備の現状 (ソフト: 備品、教育支援関係)
 - (3) 教育大綱の要点について
 - ・参考資料 教育大綱策定事例
 - ・資料④ 高山市教育大綱のためのイメージ
- ・その他

【議事要旨】

- (1) 前回会議における意見の整理について

市 長 議題(1)の前回会議における意見の整理について、事務局より説明をお願いします。

企画課長 (資料①、資料②)について説明)

(2) 教育環境の整備について

- 市長 それでは、議題（2）の教育環境の整備に入らせていただきます。
資料につきましては、前回の会議で説明されていますので省略し、早速議論に入っていきたいと思います。
前回のつづきで、ソフト面の生涯学習の分野から議論したいと思いますが、前回の内容で言い足りないことがありましたら、あわせてご意見いただきたいと思います。
- 野崎委員 生涯学習についてですが、子どもからお年寄りまで全ての世代に学ぶ機会を提供することが大切であると思う。防災の面でいうと、最近では、いつ地震やゲリラ豪雨などの災害が起きるかわからないので、自分の命を自分で守るということは、子どもであっても、障がい児、障がい者、高齢者など誰にとっても非常に大切なことだと考える。日頃から生涯学習の中で、自分の命を守る術を身に着けることや、自分たちが高山でどう生きていくか考えることなど、長い期間で考えてテーマを決めて学んでいくことが大切ではないか。
- 長瀬委員 先日、ツーリズムEXPOジャパンで高山市が大賞を受賞されたが、市長の言葉の中に「ストレスの無い」という言葉があり、高山市が外国人観光客に人気の理由として「家に帰ってきたみたいで家族的な雰囲気がある」という意見があった。それを生涯学習の面で捉えた場合、お年寄りも含めて一人ひとりの居場所づくりができるような生涯学習を展開する姿勢も必要ではないかと感じた。
高山市はそういう取り組みを展開しやすい規模の都市だと思う。昔から、子どもからお年寄りまで地域のつながりが強い地域だと思うので、それを更に強化する施策を考えることが、ひいては生涯学習の充実にもつながるのではないか。
- 岡田委員 生涯学習は非常に大きな幅をもっていて、例えば、不登校児の居場所づくりだけでなく、子どもから大人まで居場所というのは必要で、大人も自分の居場所、自分の役割を見つけて、自分に何ができるのかを考え、何か地域に貢献できるような生涯学習の充実が望まれる。
- 打江委員 高校生の入社試験の面接の際に、高山の好きなおとろや自分の地域の素敵だと思つところは何ですかと質問すると、朝、学校へ行くときにみんなが行ってらっしゃいとか今日もがんばってねとか声をかけてくれると言ってくれた子がいた。そうやって地域が子どもに根付いていることが高山の良さである。今は自然に地域が人を育ててくれているが、地域が人を育てる仕組みをつくることが大切で、まちづくりを進めるうえで人づくりというのは非常に重要ではないか。
- 針山委員 学校教育と生涯学習の連携がより必要になってきていると考える。最近では家庭環境や人の考え方がいろいろ変わってきており、自殺やいじめなどの社会情勢がでてきているが、その原点として家庭での教育環境を何とかしていく必要がある。学校の先生では手が回らない現状があるので、生涯学習課の家庭への支援の取り組みの中でもっと教育委員会との連携を密にした施策ができないか。
- 教育長 1人の子どもに対して、それぞれの年代、ライフステージに必要なことをできるまち

になることが高山市の未来につながる。市の面積は変わらずに人口が減っていく中、1人ひとりが強く志高くならなければいけない。
生涯学習は人づくりであり、学校教育でない部分が生涯学習であると捉えられている部分があるかもしれないが、私は義務教育では生涯学習の基礎を養うという気持ちでいる。
例えば、放課後児童クラブがスタートする時点で学校まると児童館という発想に立ったときのように、学校図書館も公共図書館というように考えられないか。煥章館や分館に行くより学校図書館のほうが近い人が、学校図書館を公共図書館と同じように利用できるようになれば、子どもたちにとってより多くの地域の人と関わりがもてるようになり、それによって救われる子どももあるのではないか。学校図書館が子どもにとっての居場所ということだけでなく、高齢者にとっての居場所にもなれるかもしれない。それに加えて、全ての学校図書館に図書館指導員が配置できれば、子どもの読書指導だけでなく、地域づくり人づくりに携わっていただけることにもなる。

市長 八次総合計画を策定する中で生涯学習の分野を捉えたとき2つの大きな柱を立てたと思う。1つは学ぶ力・生きる力を身に着けること、生涯学びつづける機会を提供することで、もう1つは、そこで学んだことをいかに社会に還元するかという仕組みづくりであったと思う。学び得たことを生かすという点が、家庭ぐるみでの子どもの教育や1人ひとりの居場所づくりなどにもつながっていくものだと思いますが、事務局側として何かありますか。

市民活動部長 生涯学習というのは、学校教育、社会教育、スポーツ、文化も含めて大きな範囲で捉えている。また、まちづくり協議会においては、まちを守るには防災や安心・安全ということが大切であると議論されており、そういう学習も始めている。居場所づくりについてのお話もありましたが、今後、社会教育委員会議の中でも議論を深めていきたい。生涯学習の様々な講座に多くの人に参加していただいているが、そういう機会に来られない方への取り組みも考えていきたい。

市長 学校と地域のつながりについては、子ども教育会議なども新しい試みの一つだと思う。次にスポーツの分野に入りたいと思います。

針山委員 部活におけるスポーツは大切だと考えるが、顧問の先生の多忙化は非常に大変な状況だと聞いている。部活の指導に対して、社会人など外部講師から応援していただけないか。

打江委員 部活の指導の補助的なことをお願いできる仕組みがあればと思う。専門でない先生が担当されていてケガなどの不安な部分もある。

野崎委員 学校訪問をしたときに、スポーツ少年団の活動を夜遅くまでやっていて、寝る時間が大変遅くなってしまい学校でもフラフラしているという意見を聞いた。しっかり睡眠をとる眠育も体にとって大切。睡眠をとることはケガ防止の点でも大切。スポーツと合わせて、ケガをしない動き方や食育、眠育などについても必要な教育だと考える。

岡田委員 専門外の部活でも先生が一生懸命やってくださっている姿を子どもたちに見せてくださることも大切ではないか。現在スポーツをやっている子どもたちが、将来、指導者

になっていってくれるような環境づくりや指導をすることも大切だと思う。

長瀬委員 学校が一番困っていることは、土日を含めた部活動指導の問題と専門的な知識をもたないで十分な指導ができないということだと考える。もちろん顧問の先生は経験がなくても指導をしながら専門性を深めていくことが必要だと思うが、学校から指導者派遣の要請があったときに対応できる環境の整備も求められるのではないかと。また、試合のときはスクールバスを使わせてもらえるが、練習のときは使えないということもあるようなので、せつかくのスクールバスを活用できたらと考える。

市長 部活動のあり方についていろいろご意見をいただきましたが、学校教育課としては、学校における部活動の指導者体制は十分ではないと考えますか。

学校教育課長 部活については、どの教師も多少なりとも困難さを感じながらも一生懸命対応しているのが現状。社会人の方でそのスポーツを極めてきた方から、技術面、メンタル面、指導方法などをサポートしていただければありがたいことだと考える。

市長 資料をみると、スポーツ環境整備の現状の欄が今後検討とされているが、この意味は何か。

スポーツ推進係長

総合型スポーツクラブについてももう一度考えていきたいということで、スポーツ推進員とともに検討しているところ。
学校の先生では部活動の指導に限界があるということで、総合型スポーツクラブから学校へ指導員を派遣するようなことをスポーツ推進委員と検討しているという意味である。

教育長 体育協会との関係はどのようになっているか。

スポーツ推進係長

まずはスポーツ推進員との話をある程度とりまとめたうえで、体育協会とも話をして協力していきたいと考えている。

教育長 体育協会にも真っ向から考えてもらうべきではないか。

針山委員 ハンドボールの場合は、ハンドボール協会から各校へ講師を派遣している。他のスポーツでも、応援して下さる方はきっといるはずだと思う。また、外部講師の方への金額的な手当や立場などもある程度整えていただくことも考えられないか。

打江委員 外部講師としてボランティア（無償）で来てみえる方もいらっしゃると思うが、どこまで関与しているかわからないところがあるので、ある程度、手当を付けて立場をつくることも必要ではないか。子どもたちにとっても、学校の先生以外の地域の人と触れあって教えてもらえることは社会性を養ううえで良いことだと思う。

市長 スポーツ少年団に入れてみえる保護者の方から、お金も暇も出さなければいけないので大変だと聞いたことがある。部活動でも、全国大会に出るときは激励金がもらえる

が、それ以外のときは市で何もしてもらえないという声も聞いたがどうか。

教育委員会事務局長

そういう声は聞いている。先生方の多忙化解消という意見もあったが、その面からも外部指導者の充実は必要であり、また指導者の立場をつくるということ、身分をしっかり位置づけることも大切であると感じている。指導者も社会人コーチの方になると、指導できる時間は平日の夜や土日になってしまうといった点で難しい状況もある。

針山委員

外部指導者への支払いはスポーツ振興課なのか教育委員会事務局なのか、どちらか。

学校教育課長

学校の部活動の外部指導者への謝礼は、少ない額ではあるが各部活動から出させてもらっている。

針山委員

そういうことであれば、教育委員会としてある程度の予算も必要になるのではないか。

市長

部活に重きを置いた議論になりましたが、スポーツ振興において、指導者養成が一番大変であるということではないかと思う。そのためには体育協会との連携をどうしていくのか、学校と体育協会の連携をどうしていくのか、行政としての支援は十分なのか、という課題が浮き上がってきたのではないか。

企画課長

指導者の件についてですが、学校の先生への負担が大きいということ、顧問の先生に専門性がないので専門種目に精通している方に関わってほしいということ、スポーツをするうえでのメンタル面や安全面に配慮した子どもたちへの接し方ということが混在して議論されているように思う。子どもたちへの接し方や向き合い方については、やはり先生が一番精通していると思われる。スポーツの技術的な面だけで専門的な人が指導することが目指すところになるのか、今後十分議論が必要と思われる。

教育長

その点について言えば、トップアスリートは問題なく子どもも保護者も先生も学べると考えるので、そういう人が入ってくれるような仕組みが望まれる。一年に一度でも良いのでオリンピック選手に学べるという機会を望む。

市長

市として、オリンピックを目指すような特別な取り組みの必要性はあるのかどうか。例えば、スキーやハンドボールのスーパーエリートを養成するような方向性は必要ないという考えか。自然発生的に出てくるものなのか、意図的に強化すべきなのかという論点に分かれるところではないでしょうか。

企画課長

2020年のオリンピックや高トレなどもあることから、トップアスリートに学んで高山の地であっても世界を目指していこうという希望を持てる取り組みは必要だと考える。そのことは必要だが、部活動については、みんながトップレベルを目指しているわけではなく、体力づくりや仲間づくりをしたいという子どもたちもいる中での取り組みである点にも留意していく必要があるのではないか。

市長

部活については今後も議論していくということで、それでは、次の歴史文化に入らせていただきたいと思いますが、何か意見がありますか。

- 長瀬委員 高山市は本当に文化財が豊富で、教育委員になってからいろいろな企画展の案内をいただくので必ず行くようにしているが、以前はどうだったかという、市の広報などでできっとお知らせされていると思うが、見落としをしまっていたようで、行く機会が少なかった。せっかく素晴らしい企画展がたくさん開催されているので、広報の仕方をもっと少し検討できたらとよいのではないかなと思う。例えば、学校へチラシを送るだけでなく直接先生に説明するというのも考えられる。
- 15年ほど前だったと思うが、県の美術館や博物館等の施設は高校生以下が無料になった。そのねらいは、無料にすることで高校生が行きやすくなり、また家族と一緒に行くようになり、文化的素養をもった人が育成されるということで無料化されたと思うが、高山市でもそういうことをきっかけにして市民に文化財に親しんでいただけたら良いのでは。
- 野崎委員 市外からお客様がみえたとき、私は城山を案内している。最近は外国人の方も増えたが、城山には石碑も多くあるのでそういう話もする。高山の有名なところという古い町並ばかりになる傾向があるような気がするが、飛騨の里や高山陣屋なども案内するととても喜ばれる。
- 市民1人ひとりに高山や自分の地域の隠れた魅力をもっと知ってもらえるような取り組みが大切。市の広報などで紹介されていると思うが、例えば、まちづくり協議会などで地域の良さを伝える取り組みができれば。
- 針山委員 ミシュランの観光ガイドブックにおいて、飛騨高山美術館は3つ星、飛騨の里は1つ星、まちの博物館は1つ星として紹介されていたと思う。まちの博物館に来館する外国人観光客はどれくらいみえるのか。
- 文化財課長 まちの博物館の入館者数は全体で約18万人ですが、その内、外国人は2%程度となっている。
- 針山委員 少し心配しているのは、まちの博物館のキャプションなど、日本語がメインになっているようだが、英語や中国語など外国語でのおもてなしというのは必要ないか。
- 教育委員会事務局長 商工観光部とも話をしているが、まちの博物館自体の評価は高いが、やはり外国語での標記や音声案内などがあると良いと言われており、大事な課題だと認識している。
- 針山委員 まちの博物館に入って左に、パンフレットなどが設置されているスペースがあるが、あのスペースについても商工観光部と連携して、例えば案内所として利用するなど、うまく活用してもらいたいと思う。
- 打江委員 私が子どもの頃は、飛騨高山が全国に知れ渡っていった時期で、飛騨の里も大変多くの人で賑わっていたように思う。現在は、飛騨の里の観光客が昔ほどではないが、地元の人も行っただけの人が多いのではないかな。高山の良さを伝えることは価値観の伝承しかない。そのためには人から人へ伝えていくことが大事であり、例えば、市民が家族で行きやすいように子どもは無料にするなどの取り組みも大切ではないかな。ある高校では、高校生が高山の課題は何なのか、どうした良いのかについて研究する取り組みをしているところもある。課題解決力を養うことも大切だと考える。

- 商工観光部長 飛騨の里については、市民の方に来ていただきやすいように無料になっています。
- 岡田委員 私は、古川町で生まれ、丹生川村へ来て、合併で高山市になったので、それぞれの地域のことを少しずつ知っている状況だったが、小学校の副読本「飛騨の高山」を読ませていただいて、高山のことを知るのに非常に役立った。あの副読本は大人になって読んでもとても勉強になるものであり、市民が知らなければならぬことがたくさん載っているのです。できれば全戸配布という形になれば、地元に住んでいながら、地域の文化施設に足を運ぶ機会も少なく、お客さんを案内するときに初めて入ることもあるので、施設に入る前にいろいろなことを知っておきたいと感じた。
- 市長 高山祭屋台がユネスコ無形文化遺産に登録される予定だが、後継者不足が課題になっていると聞く。
- 文化財課長 金銭的な支援をすれば良いということだけでなく、担い手不足が切実になっている。祭りに携わる人材をいかに育てるのかという仕組みづくりを真剣に考えていかなければならない。
- 市長 今までの文化財行政というのは、守るということが大きな柱だったが、今年の4月に認定された日本遺産においては、活かすことが趣旨とされている。その点についてはどうか。
- 文化財課長 文化財課としては、守ってこそ活用ができると考えており、今まで以上にしっかり守る必要があると考えている。例えば、国府地域には文化財がたくさん残っている意義について、地元の人にも外国の人にも分かっていただけるように、文化財の価値づけをしっかりやっていきたい。それができないと、うまく活用もできない。
- 商工観光部長 観光的な価値については、皆さん理解されていると思う。見たい、体験したいという観光客のニーズもたくさんあるが、最終的には、文化財を所有・管理してみえる方の理解がないと先へはすすめない。観光客のニーズと所有者の折り合いをつけることが必要で、少しずつ理解をいただいていると思う。今年の秋には、80周年記念事業ということもあり、東山のお寺や神社で普段は見られない文化財を見せていただける取り組みができることになった。ほかにも、国府の文化財や荘川の祭りなどについても、ぜひ見てもらえるように外へ発信していきたい。
- 教育長 先日、中部大学の先生方が高山へみえたときに聞いたのだが、観光案内所で左甚五郎の作品がどこで見られるか尋ねたが、答えてもらえなかったという話があった。日本遺産は物語なので、その流れをくんだものが生まれてくると良い。まちづくり協議会や町内会などで、子や孫に伝えたい物語はどんなものがあるかといった取り組みがされると良いのではないかと。
- 市民活動部長 国府のまちづくり協議会ではそういう取り組みが実施されている。自分が住んでいる地域を再発見し価値観を伝承することは大切だと考えるので、国府の取り組みを他のまちづくり協議会にも伝えながら、地域を知る取り組みをしてほしいと考える。

市民活動推進課長

まちづくり協議会の具体的な取り組みとして、各まちづくり協議会では広報紙を発行されるようになっており、ほとんどのところで地域の宝を紹介している。また、地域の昔のことを知っている方に語ってもらう会や地域の史跡を巡るウォークラリーなどもやっているところがある。市としても、そういう取り組みを発信し、発展させられるようにしていきたい。

市長

この歴史文化の分野においては、守るためには価値が分からないと意味がない、そこがスタートであることや、後継者の養成、まちづくり協議会での取り組みや効果的な広報の仕方などが課題と思われる。これらは、市が進めているブランド戦略根本そのものになっている。単に歴史文化を守るということではなく、高山そのものを守るとのことだと思う。

時間がないので、とりあえず、ソフトについての議論を終わらせていただきたいと思います。

まとめますと、生涯学習の分野については、学ぶ力と活かす力、学校と地域の連携、居場所づくり、それぞれのライフステージにおける課題、スポーツの分野については、指導者育成、いつでもどこでも誰でもできる機会提供や環境整備、体育協会との連携、歴史文化については今ほどお話のあった内容であったと思う。

今後、もう少し議論を深める必要があるか、ここで一度まとめさせていただき、大綱を策定する中で議論をしていく方法が良いか、議長としては、一度まとめて大綱の案という形になったところでもう一度、議論をしたいと考えますがよろしいですか。

各委員

はい。

長瀬委員

言いそびれてしまったことがあったので、少しだけよろしいですか。

前回、学校教育の分野について、3つ発言させていただいたが、その中で外国語教育の充実について、かなりの予算が関わってくると思われるので、教育委員会事務局に確認したところ、現在は13人のALTが配置されており、総予算が5,500万円かかっているということである。2020年の学習指導要領の改訂により、小学校3・4年生は外国語活動、小学校5・6年生は英語が入ってくることになるが、小中学校の英語と外国語活動の時間に必ずALTを配置しようとする、今の倍くらい27人くらいが必要になると想定されている。そうすると予算も倍ということになってくるので、4年後を見据えてやっていく必要があるのではないかと。

奨学金制度については、国でも給付型の奨学金について議論がすすめられているが、市の育英資金への申込について過去5年間を調べると新規の申込人数が160人強、貸付人数は113人で倍率は1.5倍となっている。このことから需要があまり無いのではと見るのは大きな間違いである。経済的に困難で進学を断念している高校生がもっと救済されるように制度を整えて高校へ積極的に働きかけるなどすれば、もっと申込人数は増えると思われる。自分の先輩が申し込んだがだめだったという情報を聞いてあきらめている子も多いので、現在の申込人数だけで奨学金制度を捉えてほしくない。

最後に、先日、相模原市の障がい者施設で事件があった。10年程前にも大阪の池田小で殺傷事件があったときに、学校の安全管理を守る取り組みがなされてきたと思う。高山市の小中学校においても防犯カメラの設置など安全面での整備を早急にやる必要

があると考える。

市 長 教育委員会の考え方はどうですか。

教育委員会事務局長

外国語教育の充実については、昨年ALTを11名から13名に増員していただいたところであるが、小学校での英語の教科化もあり更に充実を検討しているところ。ただ、ALTの増員ということもあるかもしれないが、先生のスキルアップの支援ができないか検討している。

奨学金については、委員の意見をお聞きして考えさせられた。今後検討したい。

防犯カメラの設置については、玄関と職員室の離れている学校があるので、そういう学校から設置できないか検討しているところ。

市 長 長瀬委員が言われた3つの課題は重要な課題だと思うので、市としても考えていかなければならない。特に奨学金については、おっしゃるとおりで、需要がどれだけあるかははっきりした根拠は何もない。人材を育てるためには真剣に考えなければならぬことだと思うので、教育委員会として予算要求等をしていただければと思う。

教 育 長 市民海外派遣事業には、保護者負担が2割となっているが、その2割の負担でも難しい家庭がある。そうすると夢さえ描けないことになってしまう。

市 長 チャンスをつぶすようなことは無いようにしていきたい。

針山委員 総合教育会議が始まり、これまで教育委員で意見交換してきたことをまとめてきたので、報告させていただきたい。

今、教育現場は大変忙しく、先生が子どもと向き合える時間が少ない。しかし、国からは小学校での英語の教科化など、予算の措置はされないままいろいろな施策をやるように言われている。そこで、学校現場の喫緊の課題として、事務の省力化のためにパソコンの設置を至急お願いしたい。教育委員会としては、学校の多忙化解消のため2学期制を導入したら良いのではないかと考えている。

グローバル教育やICT教育の充実のため予算要求を行うので出来るだけそれに応えてほしい。また、不登校児童・生徒の居場所づくりに取り組んでほしい。

学校は生きもので、日々、現場ではいろいろなことが起きている。財政課に協議しなくても教育委員会が自由に使える予備費のような予算を考えていただけないか。

市議団からも国に対して教育現場の財政確保を求める意見書を出してくださるということで大変ありがたいことだと感じた。

市長がすすめてみえる3本柱(景気、環境、文化)に教育もぜひ加えていただきたい。

市 長 教育委員会としての提言というような形で出していただければありがたい。できる限り、同じ思いで向かっていきたいと考える。

つづいて、議題(3)の教育大綱の要点について入りたいと考えていましたが、予定の時間がまいましたので、次回にしたいと思います。

今日までの議論を事務局でまとめていただき、素案のようなものを作ってくださいとともに、これまでの4回の議論を総括してから、素案に入っていきたいと考えます。

打江委員 教育大綱については、市民に親しみやすいキャッチコピーを付けていただきたい。

市長 お配りしている資料をご覧くださいと、大綱について2つのまとめかたが示されています。1つは、市民憲章のように大綱を1枚程度にまとめるもの、もう1つは、岐阜県のように課題と対応を説明型でまとめるもの。委員の皆様におかれましても、キャッチコピーのことも含めて、どういう大綱のまとめかたが良いか、意見をもって次回の会議に参加していただけるとありがたいと思います。